



ヴィオラスペース2015 vol.24 第3回東京国際 ヴィオラコンクール

伊 東 雨 音

ヴィオラ単独の国際コンクールとしては世界でも数少ない東京国際ヴィオラコンクール。第3回は、2015年5月30日から6月11日にかけ東京で行われた。国際コンクールが行事の中にある形なので少しわかりにくいですが、この年24回目の開催となり1994年に今井信子の提唱によりスタートした“ヴィオラの祭典”としての「ヴィオラスペース」の一環として行われている。コンクールは2009年に第1回が行われ、以降、3年に1回行われることとされている。

初回から今井信子が審査委員長を務める。国際的ヴィオリストでありヴィオラ界のカリスマともいえる今井無しには、この催しも、コンクールもあり得なかっただろう。あまりの求心力に危惧を覚えないでもないが、今井自身がこれを次世代に引き継ぎ、さらに広めていこうという意欲が旺盛。前回から、愛弟子であり信頼する世界的ヴィオリスト、アントワン・タメステイに、その多くの部分を任せ始めていた。前回のヴィオラスペースのプログラミングからそうだったが、今回は特に初の審査委員として抜擢した。

審査委員はタメステイのほかミュンヘン音楽大学のハリオルフ・シュリヒティヒ、カーティス音楽院のヴァイオリニスト、パメラ・フランク、東京芸術大学の作曲家・ピアニスト、野平一郎の5人により審査が行われた。各国から21歳から30歳まで62名の応募があり、うち男性26名・女性36名。日本と中国が最も多い12名ずつで、あとはUSAから10名、韓国から6名、フランス5名、ロシア4名、台湾3名、イギリスとスペインが2名、カナダ、ポルトガル、スイス、スペイン/ポーランド、ドイツ、ロシア/ドイツが各1名である。

課題曲に特徴があり、参加するだけでも高い音楽的能力とレパートリーを要求される。5月30日と31日が第1次審査でテレマンの無伴奏ヴィオラのための12のファンタジー、シューベルトの《アルペジオネ・ソナタ》(課題曲は後述)の古典を演奏。6月2日と3日が第2次審査で、ここではJ・S・バッハの《シャコンヌ》のほか武満徹、藤倉大(委嘱)の現代曲と自由曲でのリサイタル。本選は6月5日に行われた①がブラームスのソナタと現代曲(7曲から選択)、6日に行われた②では新日本フィルハーモニーとの共演(指揮は原田幸一郎)でモーツァルトの協奏交響曲を演奏。

コンクールの本選で協奏曲を演奏するのは通常国際コンクールでは一般的だが、これを二重協奏曲としたところに今回の大きな特徴がある。相手を務めるのは今井が信頼するミケランジェロ弦楽四重奏団の第2ヴァイオリン、ダニエル・アウストリッヒ。4人の本選出場者に合わせて曲想・テンポ感や音律感覚まで弾き分けたアウストリッヒも音楽・体力共に見事だったが、音楽の完成度だけでなくそれぞれのアンサンブル能力や音色のコントロール、オーケストラとのやり取りなどコンテスタントの音楽が見事に現れて、意味のあった選曲だったと思われる。

DVDの予備審査により、40人が通過、実際には30人が参加。第1次審査で絞られた13人が第2次審査に進み、本選には4人が選ばれた。優勝はスイスのアンドレア・ブルガー、第2位にパリで学ぶ日本人、東条慧が入った。第3位はフランスのルイーーズ・デジャルダン。残る本選出場者の1人はロシアのゲオルギー・コバリョフ。

講評で審査員の誰かが語ったのが「今回のコンクールの質の高さ」だった。「第2次審査はまるでリサイタルのように聴けた」と今井が言えば、「普通はこれだけ長い時間、演奏を聴き続け、しかも審査をしなければならないのは苦痛に感じることもあるのですが、このコンクールはまるで演奏会を聴くようで、むしろ「審査をしなければならない」と気持ちに戻さなければならないほどでした」とタメステイも語った。

第2次審査のバッハではバロックボウで演奏したコンテスタントが複数いたのも特徴。「その方が自然に感じた」という感性はヴィオリスト特有のものか最近の風潮か。

本選での4人の演奏は素晴らしく、ソリストイックな音楽の完成度だけでなく、オーケストラとの対話に加え、ヴィオラとしての音の表現力が試され、“協奏”が一つの試験ケースとしての成果はあったといえるだろう。優勝・入賞の3人はすべてレベルの高い音楽家で、課題曲の難しさもあってすべてが音楽的に充実していた。直前に取材したエリザベート国際コンクールに比しても遜色ないレベルのコンクールだったといえる。課題は今井が引いた後の継続性だが、それは項を改めるべきものだろう。

【優勝・入賞】

- 第1位 アンドレア・ブルガー (Andrea Buruger/スイス)
- 第2位 東条 慧 (Kei Tojo/日本)
- 第3位 ルイーーズ・デジャルダン (Louise Desjardins/フランス)

【課題曲】

■第1次審査

次の作品よりいずれか1曲 1) テレマン: 無伴奏ヴィオラのための12のファンタジーより第1曲, 第6曲, 第9曲, 第12曲(※暗譜のこと) 2) シューベルト: アルペジオネ・ソナタ イ短調

■第2次審査

3) 武満徹: 鳥が道に降りてきた(1994) 4) 藤倉大: Engraving for Viola (2014) (委嘱作品) 5) J・S・バッハ: 《シャコンヌ》ト短調(原曲ヴァイオリン) 6) 自由曲(10分以内 ※暗譜のこと)

■本選 [1]

7) 次の作品よりいずれか1曲 ブラームス: ヴィオラソナタ第1番, ヴィオラソナタ第2番, ヴィオラソナタト長調(原曲ヴァイオリンソナタ ト長調作品78)

8) 次の作品よりよりいずれか1曲 B・A・ツィンマーマン: 無伴奏ヴィオラソナタ(1955), リゲティ: 無伴奏ヴィオラソナタより第1・6楽章, 野平一郎: 戸外にて〜ヴィオラソロのための(2003)よりいずれかの2つの楽章, 西村朗: 無伴奏ヴィオラソナタ第1番《旋回舞踏》, 同第2番《C線のマントラ》, ノックス: 無伴奏ヴィオラのための《Fuga libre》(2009.第1回委嘱作品), 細川俊夫: ヴィオラのための《哀歌》〜東日本大震災の犠牲者に捧げる(2012. 第2回委嘱作品)

■本選 [2]

9) モーツァルト: 協奏交響曲K.364(ベーレンライター版) ※スコラダトゥーラで演奏してもしくなくても可。ただし通常調弦の場合は暗譜のこと